

現代朝鮮語の接続形?-??について

著者	鄭 玄淑
雑誌名	韓国語学年報
号	1
ページ	43-72
発行年	2005-03
URL	http://id.nii.ac.jp/1092/00001532/

現代朝鮮語の接続形 Ⅱ-면서について¹

鄭玄淑

神田外語大学，東京外国語大学非常勤講師

0. 始めに

0-1 研究の目的

本稿は，現代朝鮮語の接続形“Ⅱ-면서”²が，実現する意味とその文法的機能を明らかにすることを目的とする。その際，時間的な接続関係に焦点をあて，Ⅱ-면서形をとる用言のアスペクト的特徴との関連性を明らかにする。代表的な用言하다(する)と結合した形を借りて，本稿ではこのⅡ-면서를以降“하면서”と表すことにする。また他の文法形式も同様に하다語形で表す。

0-2 先行研究

하면서の研究は非常に少なく，禹明濟(1988)を除けば，単独に取り上げた研究はほとんどなされてこなかった³。その禹明濟(1988)も，部分的に実現意味の分類や述語との関連性に触れてはいるものの，統辞的な制約が論述の中心である⁴。これに対して，柴公也(1994)は，言語資料に基づいた，詳細な意味分類を初めて行った。そこでの하면서は，同時，逆接，時間，契機，敷衍，理由とに意味分類されるのであるが，分類の基準や定義は必ずしも明確にされていない。また，これらの意味が前件動詞の性質と関連性があることを部分的には指摘してあるものの，全体に渡って追求されてはいない。動詞分類についても「意志」的な「継続動詞」，単なる「継続動詞」，「瞬間動詞」と分けてはいるが，その分類基準は不明確である。

筆者は，鄭玄淑(2000)において，アスペクト形式による用言分類との関連を通して，Ⅰ-고(하고)，Ⅲ-서(해서)の用例を網羅的に分析し，両接続形を取る動詞のアスペクト的な意味による特徴と実現意味が有機的に関係していることを確かめた上で，하고，해서の機能をも明らかにした。本稿でも，アスペクト的クラスについては前稿を踏襲し，浜之上幸(1991)と，노마 히데키(1993)を参照する。

0-3 研究の方法と資料

本研究は実際に使われている言語資料を収集し，それに基づいて実証的に分類，分析を行う。基礎となる資料は，노마 히데키(1996:134)の「時代限定の原則」，「場所限定の原則」，「ジャンル限定の原則」に従って，1980年代以降に大韓民国で出版された小説，戯曲，漫画，放送スクリプト(script)から選択した。本研究の計量的な作業はすべて以上の資料を基に行っており，これを便宜的に基礎資料とよぶことにする。また，大韓民国，延世大学校の言語情報

開発研究院で構築された資料も必要に応じて参照している⁵。分析は基本的に筆者の内省によって行うが、判断が微妙な場合は、他の母語話者にも確認をとる⁶。また、用例を扱う際には、当該の文のみならず文脈も共に扱う⁷。

また、하먼서形をとる用言及び事柄を‘前件’、それに後接する用言及び事柄を‘後件’と呼ぶ。その他の術語に関する詳細については、鄭玄淑(1996, 1998, 2000)を踏襲する⁸。

【図表1】各形式別の出現頻度

하먼서	했으면서	하먼서도	하먼서부터	하먼서는	하먼서야	合計
720 例	4 例	152 例	15 例	5 例	3 例	899 例
80.0%	0.5%	16.9%	1.7%	0.6%	0.3%	100.0%

以上の図表 1 からわかるように, 하먼서には, 過去を表す接尾辞Ⅲ-ㅁ-がついたもの, ‘-도’(～も), ‘-는’(～は), ‘-부터’(～から), ‘-야’(～こそ)のような語尾がついたものがある。また, 出現頻度においては, 하먼서形をとる例が80%と圧倒的に多く, 次いで하먼서도가 16.9%で, 両者を合わせて 96%を超える。なお, 本稿では, 하먼서のみを考察対象とする。

1. 하먼서의実現意味と定義

収集した用例を整理すると, 하먼서의実現意味は, 前件・後件の内容によって次のような意味に区分できる。

1-1 実現意味の定義

①<同時進行>の하먼서——前件と後件がある一定時間共に進行する

1) 나는 내무반을 향해 {걸으면서} 신 하사의 귀에 대고 어디를 향해 쏘는 것이냐고 악을 써서 물었다. 【천사:258】(私は, 内務班に向かって(歩きながら), シン下士の耳に当ててどこに向けて打っているのかと大声で訊ねた。)

1)は, 前件 ‘걷다(歩く)’が行われている間, 後件 ‘묻다(訊ねる)’が行われている, ということを表し, 前件と後件がある一定時間をと共に進行している。これを<同時進行>とする。하먼서의全用例 720 例中, <同時進行>は 477 例(66.3%)と圧倒的に多く現われる。

②<途中点>의하먼서——前件が進行している途中に後件が瞬間的に起こる

2)제비 한마리가 {홍부 앞을 날면서} 박씨 하나를 떨어뜨렸습니다. 【YC】

(ツバメ 1 羽が{フンの前を飛びながら/飛ぶ最中}瓢箪の種一つを落としました。)

2)の前件‘흥부 앞을 날다’(フンの前を飛ぶ)が進行している途中、後件‘박씨 하나를 떨어뜨리다’(瓢箪の種一つを落とす)が起こる。前件の進行中に後件が瞬間的に起こるので、これを<途中点>とする⁹。日本語では、一般に‘～しながら’と訳すが、正確には‘～している最中に’と訳しうる。

하면서의全用例 720 例中、<途中点>の意味は 24 例(3.3%)とわずかであった。

③<同時点>의 하면서 — 前件の瞬間的に起こる動作と後件が同時に起こる

3)냉커피를 드시다가 {잔을 놓치면서} 주저앉으셨대.【월세】(アイスコーヒーを飲んでいらっしやる途中で{コップを放すと同時に}, しゃがみこんだんですって。)

3)は、動作の始まりと終わりが瞬間的に起こる動作‘잔을 놓치다’(コップを放す)と、‘주저앉다’(しゃがみこんだ)が同じ時点で生起し終了する。したがって、前件と後件が一定時間を同時に進行することはありません、後件は前件と瞬間的に時間を共有する¹⁰。このような場合を<同時点>とする¹¹。この場合は、日本語で‘～しながら’と訳せない。하면서의全用例 720 例中、<同時点>は 67 例(9.3%)で、<同時進行>に次いで多いが、全体的には少ない。

④<添加>의 하면서 — 前件の事柄に後件の事柄が添加される

4)채를 썰어서 여기다 좀 섞어 주면은 김치가 아주 {시원하면서} 맛이 좋조.

【김치】(千切りにして、ここに少し混ぜてやれば、キムチがとっても{淡泊で且つ}美味しくなります。)

5)어른에 {가까우면서} 아이와 가까운 나를 좋아했다.【첫사랑:215】

(大人に{近くて且つ}子供に近い私が好きだった。)

4), 5)ともに、前件‘시원하다’(淡泊だ)、『어른에 가깝다(大人に近い)』に対して後件‘맛이 좋다’(美味しくなる)、『아이와 가깝다’(子供に近い)』が添加されている。同様の例を‘前件/前件の客体または主体:後件/後件の客体または主体’で表す(以下これに倣う)。

類例:부드럽다:깊은 정적(柔らかい:深い静寂)。지역이다/치기배들이 적당히 서식하는:발생하다/간통사건도(地域である/スリがなんとか暮らしていく:発生する/姦通事件も)。짧은 듯하다/배추포기가:푸른 쪽(短いようだ/白菜の株:青い方が)、等。

<添加>は、動詞のみならず¹²、形容詞、指定詞、存在詞にも表れ、‘하는 듯하다’, ‘할 것 같다’などの文法形式をとる例もある。하면서의全用例 720 例中、<添加>は 8 例(1.1%)と最も少ない。特に、<添加>の例に限っては하면서도와置き換えが可能である¹³。また、<並列>の하고と置き換えられる。

⑤<契機>의하면서—— 前件がきっかけとなって後件が起こる

6) 봄이 {깊어지면서}, 그이는 아침에 시원한 콩나물국을 찾기 시작했습니다.

【담배:186】(春が<深まるにつれて>, 彼は朝食にさっぱりしたモヤシスープを求め始めました。)

7) 바람이 {불면서} 비는 점점 굵어졌고…。【카프카:125】

(風が{吹くにつれて}, 雨はますます激しくなあって…。)

6)は前件 ‘봄이 깊어지다’ (春が深まる)がきっかけとなって、後件 ‘콩나물국을 찾기 시작하다’ (モヤシスープを求め始める)が起こり、7)も、前件 ‘바람이 불다’ (風が吹く)がきっかけとなって、後件 ‘비는 점점 굵어지다’ (雨はますます激しくなる)が起こる。このような場合を<契機>とする。同様の例を挙げる。

類例: 깨지다/항아리가: 터지다/이마가(割れる/甕が: 裂ける/額が), 달아나다/취기가: 으슬 으슬 물러오다/추위가(醒める/酔いが: ぞくぞくと押し寄せる/寒気が), 접어들다/가을로: 부쩍 늘어나다/일감은(近づく/秋に: ぐっと伸びる/仕事が), 트이다/시야가: 내려다보이다/호수가(広がる/視野が: 見下ろせる/湖が), 접어들다/말기로: 심해지다/식량난이(近づく/末期に: 酷くなる/食糧難が), 들리다/들쩍귀소리가: 열리다/문이(聞こえる/蝶番の音が: 開かれる/門が), 들리다/열쇠소리가: 조심스럽게 열리다/문이(聞こえる/鍵音が: 注意深く開かれる/門が), 불다/바람이: 잠잠 굵어지다/비는(吹く/風が: 次第に激しく/雨が), 붉어지다/얼굴이: 잠겨지다/목소리가(赤くなる/顔が: 詰まる/声が), 퍼지다/술기운이: 물러오다/피로가(回る/酒が: 押し寄せる/疲労が), 멍멍해지다/귀가: 기우뚱하다/벽이(聞こえなくなる/耳が: 傾く/壁が), 시작되다/고스톱이: 가지않는다/사람들은(始まる/花札が: 行かない/人々は), 오므라들다/입술이: 되다/체리모양이(すぼまる/唇が: なる/桜桃のように), 지나다/이틀이: 인정할수밖에 없게되다(過ぎる/二日が: 認める以外になくなる), 지다/해가: 더욱 잔잔해지다/바다는(沈む/陽が: ずっと静かになる/海は), 파가워지다/눈빛이: 휩쓸려들어가다(目にしみる/白雪が: 押し入る), 기울이기하다/머리: 곡예를하다/다리는(傾けたりもする/首: 曲芸をする/足は), 흔들리다/눈의푸른기가: 감들다/웃음이(揺れる/瞳に青い光が: 漂う/笑みが), 서서히 어두워지다: 깔리다: 조명(次第に暗くなる: 広がる/照明), 세지다/바람이: 시작하다/비가(強くなる/風が: 振り始める/雨が), 성큼 다가서다: 보이기 시작하다/징조가(大股で近づく: 見え始める/兆しが), 단순화되다/선으로: 흐려보이다(単純化される/線で:ぼんやりみえる), 점차로 떨어지

다/속도가:확인되다(だんだん落ちる/速度が確認される), 먹어가다/나이를:바뀌게 되다/생각이(とっていく/歳を:変わるようになる/考えが), 들다/생각이:들다/기분이(なる/考えに:なる/氣分に), 피우기 시작하다/담배를:생긴 습관(吸い始める/タバコを:ついた習慣), 미치다/여기에생각이:섬뜩한게지나가다(及ぶ/ここへ考えが:ひやりとしたものが通る), 칭송되고 미화되다:이겨내다/망각의 힘을(褒められ美化される:耐え抜く/忘却の苦勞を), 내리다/햇살이:아리게하다(降る/日差し:ひりひりする), 관여해보다:알다(関与してみる:分かる), 깊어지다/가을이:어질러놓다/낙엽들이길(深くなる/秋が:はらはらと落ちる/落ち葉が道に), 가벼워지다/중압감이:느끼다/해방감을(軽くなる/重圧感が軽くなる:感じる/解放感を), 等。

以上の例は、前後件が意味的には因果関係を結んでいるとともに、どちらも共に無意志用言¹⁴である場合が多く、また、前件と後件の主語、主体が異なる例も多い¹⁵。さらに、前件に‘하기 시작하다’, ‘하기도 하다’などの文法形式をとることもあり、後件にも‘하게 되다’, ‘하게하다’, ‘하기 시작하다’のような様々な形式をとることが可能である。この場合は、‘함으로 인해서(～することによって)’, ‘함에 따라(～するにつれ, ～するにしたがって)’との置き換えが可能である。時間の経過を表す副詞の‘차츰’, ‘점차’(だんだん), ‘조금씩’(少しずつ), ‘점점’(ますます, いよいよ), ‘서서히’(徐々に)も挿入されやすい。なお、日本語で‘～ながら’とは訳せない。

⑥<逆接>의 하면서—— 前件と後件が逆の意味となる

8) {가짜 줄 알면서} 사다니요? 【멀리:157】

({偽物だと知りながら/知っているのに}, 買うなんて。)

9) 뭐가, {왜 좋은 지도 모르면서} 좋다고만 했다. 【나무:161】

(何が, 何故, {良いのか知らないのに}, 良いとばかり言った。)

10) 남자: {별것도 아니면서} 대단한 체 하는 집이었지! 【마주:24】

(男: {何ごとでもないのに} 大変なふりをする家だったね。)

11)그이는 {몸도 제대로 가누지 못하면서} 그 술을 깡그리 비웠어요. 【신혼:47】

(彼は, {体もろくに支えられないくせに}, その酒をすっかり空っぽにしたのよ。)

8)‘알다’(知る)と‘사다’(買う), 9)‘왜 좋은지도 모르다’と‘좋다고만 하다’, 10)‘별것도 아니다’(何者でもない)と‘대단한 체하다’(大変なふりをする), 11)‘몸도 제대로 가누지 못하다’(体もろくに支えられない)と‘술을 깡그리 비우다’(酒をすっかり空っぽにする)は前後件の意味自体が逆接関係にある。このような場合を<逆接>とする。このときの하면서は, ‘함에도 불구하고’, ‘한데도’(するにも関わらず)の意味となる。日本語で, ‘～するのに’, ‘～するくせに’, ‘～するにも関わらず’と訳す。以下, 同様の例を挙げる。

類例: 만나다/그사람을: 나와 잔다(彼と会う: 私と寝る), 피우다/담배를: 구타하다/담배피우는 아내를(吸う/タバコを: 殴打する/タバコを吸う女房を), 알다(知る), 모르다: 아는체하다(分からない: 知るふりをする), 못하다(できない), 병신이다/지가: 내 탓만하다(바가'だ/自分が:私のせいにする), 받아들일수없다/아무것도: 선사하다/비열한웃음만을(受け入れられない/何にも:ふるまう/卑劣な笑みだけを), 없다: 있다(ない/ある), 앓다/사랑하지도: 싫다/때맞기기는(ない/愛しても:きらい/奪われるのは), 等。

以上の類例からも分かるように, ‘알다’(分かる), ‘모르다’(分からない), はすべて<逆接>となる。他に否定を表す, ‘않다, 하지 않다’(～しない), 不可能を表す‘못하다, 하지 못하다’(～できない), 存在詞‘있다’(ある, いる), ‘없다’(ない), 指定詞‘-이다’(～である), ‘아니다’(～でない)はすべて<逆接>となり得る。また, 前件が形容詞の場合や, I.-고 있다形式, III-있다形式(以下, 하고있다, 해있다고と記す)をとる例も<逆接>となり得る¹⁶。なお, 以上の例は, すべて하면서도との言い換えが可能である。

実現意味の定義をまとめると次のようになる。

- ①同時進行……前件と後件が一定時間ともに進行している。
- ②途中点……前件が一定時間進行している途中で, 後件が瞬間的に起こる
- ③同時点……前件と後件が同時点に起こる。
- ④添加……前件の事柄に後件の事柄が添加される。
- ⑤契機……前件がきっかけとなって後件が起こる。
- ⑥逆接……前件と後件が逆の意味となる。

以上の6つの実現意味は, i. 前件と後件が一定時間ともに進行する場合(①同時進行), 前件が一定時間進行している途中で後件が瞬間的に起こる場合(②途中点), 前件と後件が同時点に起こる場合(③同時点)のように, 前件と後件が時間的關係によって接続するもの, ii. 時間的關係は存在するものの, むしろ「きっかけ」(⑤契機)や「逆の意味」(⑥逆接)など論理的關係が表に出るもの, iii. 前件に後件が添加されるだけで(④添加), 両者が時間的關係を一切持たないものの3つに大別できる。以下, i. 時間的關係による接続, ii. 論理的關係による接続, iii. 非時間的關係による接続ということにする。

1-2 考察対象の限定

하면서の6つの実現意味は, i. 時間的關係による接続(<同時進行>, <途中点>, <同時点>), ii. 論理的關係による接続(<契機>, <逆接>), iii. 非時間的關係による接続(<添加>)の3つに大別できた。本稿では, 主に時間關係による接続關係に注目して考察を進めていくことにする。

2. 主体と主語について

時間的關係の実現意味を分析していく前に, 하먼서形をとる文の主体と主語についてみておく¹⁷。前件と後件の主語が同一であるかどうかを, 基礎資料を通して検討した結果, 하먼서形をとり, 時間的關係の意味となる文の場合, 前件と後件は同一主語となる¹⁸。

ところで, これを一方の主語が省略されているとの見方がある。

a) 순이가 노래하면서 (순이가) 춤을 춘다. (禹明濟:6)

スニが歌いながら(スニが)踊りを踊る。

b) 기러기가 울면서 (기러기가) 날아간다. (禹明濟:7)

雁が泣きながら(雁が)飛んでいく。

禹明濟(1988:11)は, 上例のような場合, 後件の()の中に補ったように, 前件と同じ「主語が省略されなければならない統辞的特徴」があると述べる。しかし, 노마히데키(1996:137, 155)が指摘するように, 主語の「省略」, 「削除」は「観念的な操作」に過ぎず, この場合は, 後件の主語はないとみなすのが妥当であろう。主体は同一である。

一方, <契機>のような論理的關係の意味となる場合は, 前件と後件の主体が異なっているのが特徴である¹⁹。なお, 主語に後接する語尾には-는/-은(～は), -가/-이(～が), -도(～も)があった。また, 主語が明示されてない無主語の場合が 328 例でほぼ半数を占めるが, 非同一主語とみなされるものはなかった。次の表は, 基礎資料中に表れた主語の語尾と位置についての調査である。

【図表2】 하먼서의主語に後接する語尾と位置

語尾	主語前置型	主語後置型	計	
				合 %
-는/-은	179 例	70 例	249 例	70.0%
-가/-이	82 例	18 例	100 例	28.0%
-도	2 例	3 例	5 例	1.4%
なし	2 例		2 例	0.6%
合計	265 例 74.4%	91 例 25.6%	356 例 100.0%	100.0%

上の表からも分かるように, 主語の語尾は-는/-은(～は)が 70%で最も多く表れる。また, 主語の後置に比べて, 前置が 70%を越す。

12) 심호흡을 하고 창문을 열었다. {창문을 열면서} 나는 내 손으로 그 창문을 닫은 기억이 없다고 중얼거렸다. 【나무:201】

(深呼吸をしてから窓を開けた。{窓を開けながら}私は自分の手でその窓を閉めたことがないとつぶやいた。)

13) 정민이 {웃으면서} 말했다. 【서부:100】 (チョンミンが{笑いながら}言った。)

12)は主語が後置され主語の語尾が ‘-는/-은’ (～は)となる例, 13)は主語が前置され主語の語尾が ‘-가/-이’ (～が)の例である。しかし, 12)は ‘나는 창문을 열면서’ のように主語を前置させることもでき, 13)もまた, ‘웃으면서 정민이 말했다’ のように, 主語を後置させても自然な文となる。

7) {바람이 불면서} 비는 점점 굵어졌고…。【1-1(⑤)で挙げた<契機>例】

ところで, 노마 히데키(1996:145-148)においてすでに明らかにされているが, 以上の 12), 13)の例の하면서節20の内部には独自の主語を持つことはできず, 7)のようなく契機>の場合にのみ, 하면서節の内部に独自の主語を持ち得る。

さらに, <契機>に限って, 前件の主語には “바람이”のごとく, 主節の“비는”とは別の ‘-가/-이’ (～が)の語尾がつき, 後件の主語には ‘-는/-은’ (～は)の語尾がつくことが可能である。

3. 現代朝鮮語動詞のアスペクトについて

하면서形をとる品詞は動詞が 90%を超える。本節では하면서形をとる動詞を, アスペクト形式である하고있다形式をとり得るかどうかの形態的基準を中心に分析する²¹⁾。さらに, 後件の動詞に関しては, 한다, 했다形式はふれない。

以下, (1)하고있다形式を持つもの, (2) 하고있다形式を持たないものを2つに分けて論じる。

3-1 하고있다形式を持つ動詞と하면서

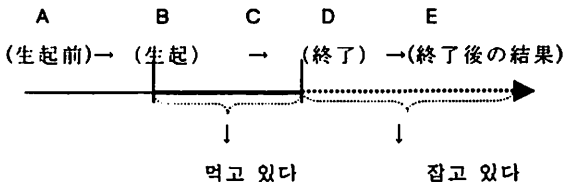
浜之上幸(1991:25-26)では, 動詞のうち하고있다形式を持つものを「動作動詞」, 持たないものを「状態動詞」とする。動作動詞はさらに먹다(食べる), 걷다(歩く)のように, 하고있다形式が「具体的な動作を表し局面を特定できるもの」と, 알다(分かる, 知る), 열중하다(熱中する)のように「具体的な動作を持たないもの」に下位分類し, 前者を「動作性動作動詞」, 後者を「状態性動作動詞」とする。

以上の浜之上分類に対して, 노마 히데키(1993:29-35)は, 動作の表す局面を特定する前に, 単一主体の単一動作において하고있다形式を持ち得るかどうかを基準に, 動詞分類を行う必要性を指摘して, 하고있다形式を持ち得るものを「有局面動詞」, 하고있다形式を持ち得ないものを「無局面動詞」²²⁾とする。‘먹다’(食べる)のように, 単一主体の単一動作において먹기 시작하다(食べ始める), 或いは먹는 중이다(食べている最中だ), ‘다 먹었다’(食べ終えた)が可能であるように, 動作に一連の時間的局面を想定できるものが「有局面動詞」, 逆に, 一連の動作

が進行する局面を表さないものが「無局面動詞」である。

また、浜之上幸(1991:24)は, 하고있다形式を持つ動詞のアスペクト的特徴について, ‘먹고 있다’(食べている)のように「事象の生起から終了の局面」を表す場合と, ‘잡고 있다’(握っている)のように「動的な局面が終了した後の局面」を表す場合のような 2 種類の局面を指すことがあると指摘する。このことを浜之上幸(1991:14)を基に図示すると次のようになる。

【図表3】 하고있다のアスペクト的な局面



注)上の図は, 浜之上幸(1991:18)を基に作成したものである。

本稿では前者(図表3におけるC)を動作の進行局面, 後者(図表3におけるE)を結果持続局面ということにする。要するに, 하고있다形式を持つ動詞は, 有局面動詞と無局面動詞に分類され, 有局面動詞においては, 하고있다形式のアスペクト的特徴が「進行局面」と「結果持続局面」となる2種類があることになる。

ただし, 次のような例は注意を要する。

- a) 철수가 옷을 입고 있다. (チョルスが服を着ている。)
- b) 철수가 가방을 들고 있다. (チョルスがカバンを持っている。)

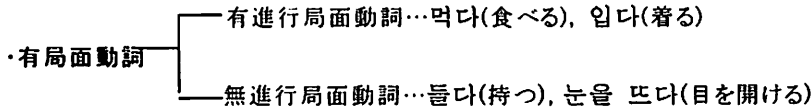
a), b)は, 하고있다形式を持っている点で共通している。ところが, 하고있다形式のアスペクト的特徴に差がある。

a)の‘입다’(着る)は, 動作の進行局面(C)である‘입고 있다=입는 중’(着つつある最中—服に腕などを通したりする動作—)の場合と, 動作が一旦終了した後の結果持続局面(E)である‘입고 있다=입은 후의 상태’(着た後の状態)場合の2通りの解釈が可能である。このように, ‘입고 있다’には, 動作の進行局面を表す場合と, 結果持続局面局面を表す場合があるといえる。

一方, b)の‘들고 있다’(持っている)は, 結果持続局面(E)のみを表す。‘들다’(持つ)の動作をよほどのスローモーション化しない限り²³, 生起局面(B)である‘*들기 시작하다’(持ち始める)から, 動作の進行中である, 進行局面(C)の‘*들고 있다=*드는 중’(*持ちつつある最中), 一連の動作が終了したことを示す局面(D)‘*다 들었다’(*持ち終えた)という3つの局面は表せない。上の図表3

では、生起(B)=終了(D)のようにこのように表すしかない。하고있다形式を持っている動詞でも、動作の進行局面をまったく表さないものがある。

以上述べてきたように, 하고있다形式を持ち, 有局面動詞で, 進行する局面を持つ動詞を「有進行局面動詞」, 進行局面を持たない動詞を「無進行局面動詞」と呼ぶ。以上, 述べてきたことを整理すると次のようになる。



3-1-1 <同時進行>의하면서

<同時進行>とは, 前件と後件が一定時間ともに進行する場合をいうのだが, 前後件の動詞の種類によってさらに 3 種類に区分される。

(1)前後件の生起～終了局面が一致する

14)혜선이 어머니를 태운 {휠체어를 밀면서} 들어온다.【말들:273】

(ヘソンのお母さんを乗せた{車椅子を押しながら}入ってくる。)

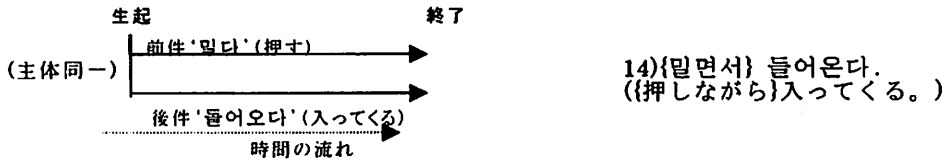
15)또 한차례 흠바람이 병사들이 서 있는 {대열 사이를 헤치면서} 소리내어 지나갔다.【별:102】(また一度, 土風が兵士達の立っている{隊列の間を分けながら}音を立てて過ぎていった。)

14)は‘휠체어를 밀다’(車椅子を押す)と同時に‘들어오다’(入ってくる)が始まり, 両者がそのまま同時に進行し, 同時に終了する。15)も‘대열 사이를 헤치다’(隊列の間を分ける)と同時に‘지나가다’(過ぎていく)が始まり, 両者がそのまま同時に進行し, 同時に終了する。2 例とも, 前件と後件がある一定時間(この場合は, 生起～終了の全時間)を同時に進行するので<同時進行>である。その際, 後件を移動動作に限定すると, 接続形하고との置き換えが可能である²⁴。同様の例を挙げる。ただし単一主体, 単一動作に限る(以下これに倣う)。

類例:가르다/공터를반으로:지나가다(分ける/空き地を半分に:過ぎていく), 규탄하다:헤메다/거리를(糾弾する:さまよう/町を), 내다/길을:돌아오다(作る/道を:帰ってくる), 놀리다:못살게굴다(からかう:困らせる), 망치다/농사를:빠져나오다/큰길로(台無しにする/農作物を:抜け出る/大道路に), 쏘다/목젖을(맥주가):넘어가다(刺す/口蓋垂を(ビール):通って行く), 헤치다/대열 사이를:지나가다(分ける/隊列の間を:過ぎていく), 等。

これらの類例は, 前件, 後件ともに하고있다形式が進行局面を表す, 有進行局面動詞である。以上を図示すると次のようになる。

【図表4】生起点から共に進行の＜同時進行＞の하면서



(2)前件と後件が反復・多回動作である

16)"잉잉잉……."바보는 크게 {소리지르면서} 울었습니다.【옛날:198】

(“ああんああん……。”バカは、大きく{声をあげて}泣きました。)

17)트럭들은 {덜컹거리면서} 달려가다가 이따금 빵을 떨어뜨리기도 했다.

{첫사랑:204} (トラックは{がたがた鳴らして}走る途中、時々パンを落としたりもした。)

16)は、前件‘소리지르다’(声をあげる)は、後件‘울다’(泣く)の動作が進行している間中の様子を表している。17)も、前件‘덜컹거리다’(がたがた鳴らす)が後件‘떨어뜨리다’(落とす)の動作が進行している間中の様子を表している。したがって、前後件は同時に始まり同時に進行し同時に終了する。これらも前件と後件がある一定時間(生起～終了の全時間)を同時に進行しているので＜同時進行＞である。以下、同様の例を挙げる。

類例: 광광 구르다/마당을:내다/화를(ドンダン踏み鳴らす/床を:立てる/腹を), 맴돌다/마룻바닥을:중얼거리다(ぐるぐる回る/床を:つぶやく), 소리지르다:울다(叫ぶ:泣く), 내다/소리까지:울다(出す/声まで:泣く), 내두르다/혀를:하는 말(巻く/舌:言う言葉), 두리번거리다/눈을:내려다보고있다/나를(まよろまよろする/目を:見下ろしている/私を), 기웃거리다/안을:물다(覗く/中を:尋ねる), 버르적거리다/다리를:흘리다/거품을(ばたばたする/足を:流す/泡を), 와들와들 떨다:보다/문쪽을(ブルブル震える:見る/扉側を), 와들와들 떨다:지켜보다/어머니의 광란을(ブルブル震える:見守る/母の狂乱を), 벌벌 떨다:도망치다(ガタガタ震える:逃げる), 바래다/안색이:덜덜 떨다(変わる/顔色が:ガタガタ震える), 부들부들 떨다:들어올리다/거적때기를(ブルブル震える:持ち上げる/むしろを), 파르르 파르르 떨다:망연하여 자실하다(グラグラ揺れる:茫然自失する), 펄쩍펄쩍 뛰다:좋아하다(ぴョンぴョン跳ねる:好む), 찌릿찌릿해지다:지리다/오줌을(ぴりぴり入ってくる:もらす/小便を), 뽀뽀 흘리다/땀까지:껴안고있다(타타タ流す/汗まで:抱え込んでいく), 나폴나폴 뛰다/나비처럼:지나가다/리어카앞을(ヒラヒラ飛ぶ/蝶のように:過ぎる/リヤカーの前を), 빙글빙글 웃다:주저앉히다/나를(ニコニコ笑う:座り込ませる/私を), 징징 울다:오르다/차에(エンエン泣く:乗る/車に), 꺾꺾 울다:웃다(ワンワン泣く:笑う), 하다/대경실색을:줄줄이엮어대다/침장이들을(する/驚愕を:次から次へと与

え続ける/鍼灸師を), 等。

これらの類例は, 前件, 後件ともに, 하고있다形式が進行局面を表す有進行局面動詞である。なお, その他の特徴としては, 前件の動詞が語彙的な意味のクラス25において‘反復・多回動作’を表す場合や, 前後件のいずれかの動詞に動詞化接尾辞‘-거리다’, -대다などの接尾辞が付いたり, また, 팡팡(ドンドン), 쿵쿵(ドキドキ)などの擬声語, 擬態語26が挿入されている場合が多い27。これらは接続形하고との置き換えが可能である。日本語では‘～して’と訳すことが可能である28。概念図は図表4と一致するので省略する。

(3)前後件がある一定時間を同時に進行する

18)나의 책임 경계방향에 {열중하면서} 군목에 신경쓰느라 정신이 없었다.

【천사:293】(私の責任警戒方向に{熱中しながら}, 軍の牧師に神経を使うのに精いっぱいだった。)

19) {골목을 걸으면서} 승주는 한가지만 생각한다. 【세상:67】

({小道を歩きながら}, 슨जूは一つのことだけ考える)

20) 결혼해서 남매를 낳고 김포 고함마을에서 {양계를 하면서} 살아요. 【천사:247】

(結婚して兄弟を生んで, 김포の故郷で{養鶏をしながら}暮らしています。)

18)の‘열중하다’(熱中する)と‘신경쓰다’(神経を使う), 19)の‘걷다’(歩く)と‘생각하다’(考える), 20)の‘양계를 하다’(養鶏をする)と‘살다’(暮らす)が, それぞれある一定時間を同時に進行しているので<同時進行>である。なお, 前件の動詞について, 18)は「状態性動作動詞」, 19)は「動作性動作動詞」, 20)は, ‘양계를 하다’(養鶏をする)のような‘時間的幅の広い’動詞がそれぞれ前件に来ているが, これらの小差は意味決定に影響を及ぼしてはいない。以上の例を図示すると次のようになる。

【図表5】一定時間を共に進行の<同時進行>の하면서

前件 ‘열중하다’ (熱中する)



18) {열중하면서} 신경을 쓴다.

({熱中しながら}神経を使う。)

後件 ‘신경을 쓰다’ (神経を使う)



19) {걸으면서} 생각한다.

({歩きながら}考える。)

時間の流れ

20) {양계를 하면서} 산다.

({養鶏をしながら}暮らす。)

図表 5 のように, 前件と後件の始まりと終り(網掛け部分)は不明確であるが, 前件の行われている一定時間に後件が行われていることは確認できる。以下, 同様の例を挙げる。

類例: 【状態性動作動詞】바라보다: 생각하고있다(眺める: 考えている), 하다/돈생각이나: 감방생활을견디게하다(する/お金のことで: 監房生活を耐えさせる), 보다/겨울이 오는것을: 낙담하고 한숨짓다(見る/冬がくるのを: 落胆してため息をつく), 뿌리다/혈박과두려움을: 팔아가고있다(脅迫と恐怖を散らす: 売っている), 하다/긴장을: 치르다/계산을(する/緊張を: 払う/家計を), 해로하다: 사람을나누다(解き会う: 会いを分かち), 간주하다: 열다/입을(みなす: 開く/口を), 억누르다/통증을: 애써 말하다(押さえる/痛みを: 努力して話す), 죽이다/생명을: 저주하다/인생을(殺す/命を: 呪う/人生を) 지키다/병상을: 붙을쓰다듬어주다(守る/病床を: 頬を撫でてやる), --後件に時間的幅が広い例--그리다/과거를: 살다(懷かしむ: 過去を生きる), 견디다: 살아가다(耐える: 生きていく), 당황해하다: 살아오다(当惑する: 生きてくる), 생각하다/알몸만을: 살다(裸だけを考える: 生きる), 쓰다/안간힘을: 살아오다(する/必死の努力: 生きてくる), 等。

類例: 【動作性動作動詞】가리키다/종이봉지를: 재잘거리다(指差す/紙袋をおしゃべりする), 까다/조인트를: 말하다/악에발친소리로 (蹴っ飛ばす/ジョイントを: 言う/やけそになった声で), 나누다/애기를: 산책하다/새벽길을(交わす/話を: 散策する/夜明けの道を), 내밀다: 말하다(突き出す: 言う), 내다/짜증을: 구박하다/어머님을(出す:/私を: いじめる/母を), 내다/신경질을: 재촉하다(出す: 神経質を: 催促する), 다가오다: 표정을하다(近寄って来る/心配そうな表情), 다니다/등지를: 구하다/싼방을(通う: 借りる/安い部屋を), 따라다니다: 들여다보다(ついてまわる: 覗く), 덤벼들다: 난리를치다(食ってかかる: 騒ぎ立てる), 둘러주다/바느질거리다: 미안해하다(返してくれる/針仕事を: 申し訳ながる), 드시다/커피: 기다리다(飲む/コーヒー: 待つ), 따라다니다: 피우다/재를을(ついてまわる: する/かわいしぐさを), 따라가다: 치르다/시험을(ついてまわる: 実施する/試験を), 뛰어들어가다: 묻다(駆け込む: 尋ねる), 들어가다: 결심하다(入っていく: 決心する), 뒤따라나오다: 지껄이다/안해도될소리를(追いかけてくる: おしゃべりする), 들어가다/카바레로: 중얼거리다(入っていく/キャバレーへ: つぶやく), 먹다/쏘가리탕이나: 자다/하룻밤 (食べる/ソガリタンでも: 寝る/一晩), 먹다/음식을: 나누다/애기나(食べる/料理を: 交わす/話でも), 미끄러지다: 깨지고 있다(すべる: 壊れている), 몰다/차를: 떠올리다/노트북 피시를(運転する/車を: 浮かべる/パソコンを), 스쳐지나다/그녀를: 중얼거리다(すれ違ふ/彼女と: つぶやく), 싸다/흰 종이에나누어놓은걸: 말하다(包む: 白い紙に分けておいたものを: 言う), 씻다/꽃삽을: 떠올려보다/소년의 얼굴을(洗う/移植ゴテを: 浮かべる/少年の顔を), 울다: 도망치다(泣く: 逃げ出す), 웃다: 말하다(笑う: 言う), 웃다: 묻다(笑う: 尋ねる), 웃다: 쳐다보다/나를(笑う: 見上げる/私を), 졸다: 운전하다(居眠りする: 運転する), 울다: 생각을하다(泣く: 考える), 저나트다/방안으로: 소리치고있다(背負って運ぶ/室内に: 叫んでいる), 진입해들어가다: 묻다(進入して入っていく: 尋ねる), 짜다/그물을: 잊어버리고 있다/고통을(絞る/その水を: 忘れていた/苦痛を), 쏘아들어가다/가게안으로: 소리치고있다(駆け込む: 叫んでいる), 치다/줄행랑을: 그려보이다/동그라미를(する/逃亡を: 描いて見せる/円を), 타다/청솔가지가: 내다/소리(燃える/松の枝が: 出す/音), 파묻다/얼굴을: 껴안다(埋める/顔を: ギュッと抱き締める), 하다/말을: 허우적거리다(言う/言葉を: どもる), 等。

類例: 【習慣性】내려다보다/담배를: 훑얼거리곤하다(見下ろす: ハミングしたりする), 부딪치다/사회와: 살아오다(ぶつかると: 社会と: 生きてくる), 생각하다/사람들을: 적시기도하다/눈시울을(考える/人々を: 目頭を/濡らす), 하다/방물장사를: 기다리다/납편을(する/小間物の行商: 待つ/夫を), 하다/부두노역을: -것은 아닌지 생각하다(する/港灣労働を: -のではないかと思う), 살다: 숨쉬다(暮らす: 息をする), 싸우다: 지내다(喧嘩する: 過ごす), 짓다/농사를: 살다(営む/農業を: 暮らす), 等。

これらの類例は前件, 後件ともに, 하고있다形式が進行局面を表す有進行局面動詞である。

以上の(1)(2)(3)は、生起及び終了局面が時間的に一致するか否かの違いはあるが、少なくとも前後件がある一定時間を同時に進行していることは確かなので、＜同時進行＞として括ることができる。

3-1-2 ＜途中点＞の하면서

21)우린 {수송선에 실려오면서} 간염 걸린 널 몹시 부러워했지. 【천사:258】

(我々は{郵送船に乗ってくる途中}肝炎にかかった君を本当にうらやましいと思ったのさ。)

22)땅에 내려놓았던 {소총을 어깨에 다시 메면서} 오일병은 타악 침을 뱉었다.

【천사:197】(地面に降ろして置いた{銃を肩にもう一度背負う途中}オー等兵はペッと唾を吐いた。)

21)の‘실려오다’(乗ってくる)と‘걸리다’(かかる), 22)の‘소총을 메다’(小銃を背負う)と‘침을 뱉다’(唾を吐く)は、いずれも前件がある一定時間進行している間に、後件の動作が瞬間的に終わるので＜途中点＞である。

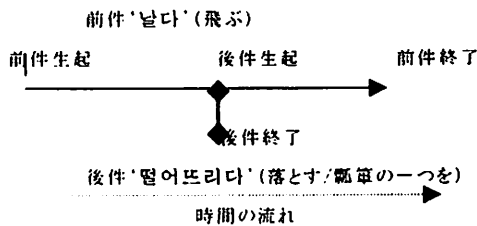
21), 22)の前件は有進行局面動詞である。ところが、後件‘걸리다’(かかる), ‘침을 뱉다’(唾を吐く—動作が一回に限る—)は하고있다形式を持たないので進行局面は存在せず、瞬間的に生起＝終了局面を迎えるので無局面動詞である。このように、前件が有進行局面動詞、後件が無局面動詞となる場合は＜途中点＞となる。以下、同様の例を挙げる。

類例:고함을치다:팽개치다/뽕을(怒鳴りあげる:殴りつけた/パンを), 거역하다:갓다대다/입술을(逆らう:寄せる/唇を), 기다리다/버스를:꺼내다/ ‘천사’를(待つ/バスを:取り出す/天使’を), 따라나가다:볼들다/미선을(ついて出ていく:つかむ/ミソを), 마시기시작하다/맥주를:스치다/무릎을(飲み始める/ビールを:かすめる/膝を), 미끄러지다:쓰러지다/앞으로(すべる/何回も:倒れる/前に), 뱉다/불평을:일어서다(吐く/不平を:立ちあがる), 빠져나오다/ 골목길을:한순간 갈등에 휩싸이다(抜け出てくる/路地を:一瞬葛藤につつまれる), 소리치다/또다시 들고:던지다(叫ぶ/再び持って:投げる), 싸다/재봉틀을:쓰옥 문지르다/소매로 눈가를(つつむ/ミシンを:すっこする/袖で), 쓰다듬다/머리를:갓다대다/입술을(撫でる/頭を:寄せる/唇を), 지르다/비명을:일어나다(あげる/悲鳴を:起こる), 주저앉히다/나를:앉다/그 자신도 덩달아(座り込ませる/私を:座る/彼自身もつられて), 투덜거리다:일어서다(不平をいう:立ちあがる), 하다/식사를:알다(알아차리다)/식성을(する/食事を:知る/食性を), 휩쓸려 내리다/세찬물살에:할퀴어생기다/홍터(押し流される/強い水の流れに:引っかいてできる/傷跡), 等。

前件が有進行局面動詞、後件が無局面動詞で＜途中点＞となるのは、前件の動詞が持つ進行局面のある一時点と、後件の瞬間的に迎える生起＝終了局面を하면서が結合しているからである。‘실려오면서 간염 걸리다’(乗ってく

る途中, 肝炎にかかった)の例をとって具体的に言えば, 「'실려오다' (乗ってくる)の進行局面である'실려오고 있다'(乗ってきてつつある)のある一時点に, '걸리다' (かかる)の生起=終了局面が起こる」と分析できる。このような例は, 多くの母語話者の指摘によると, ニュアンスの差はあるが, 動作の途中を表す接続形 I-다가(하다가)²⁹と置き換え得る場合が多いという。これを概念図化すると次のようになる。

【図表6】<途中点>の하면서



2)제비 한마리가 {홍부 앞을 날면서} 박씨 하나를 떨어뜨리다.
 (ツバメ 1羽が{フンの前を飛ぶ途中}瓢箪の種一つを落とす。)

3-1-3 <同時点>의하면서

23)주지스님은 {차를 들면서} 말했다. 【YC】

(お坊さんは{コップを持つと同時に}, 言った。)

24)지훈은 반창고를 더덕더덕 붙힌 {눈을 지그시 감았다 뜨면서} 더욱 어리석은 대답을 했다. 【YC】 (チフンはばんそうこうをべたべた貼った{目をそっとつぶり, 開けながら}, さらに愚かな答えをした。)

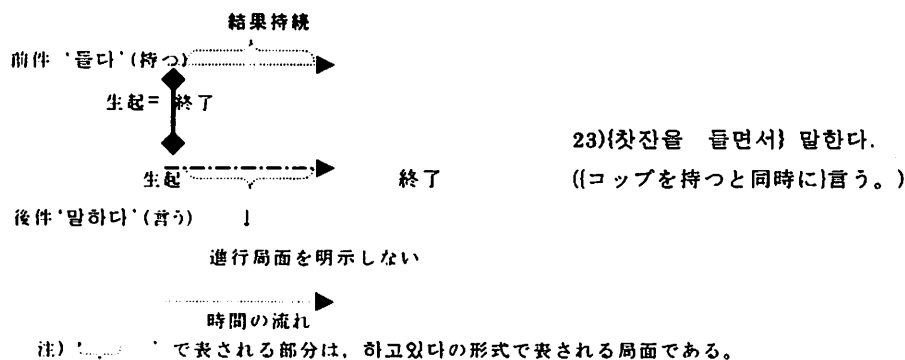
23)は, '차를 들과 동시에 말하기 시작하다' (코ップを持つと同時に言い始める)の意味であり, '차를 든 채로' (코ップを持ったまま言う)の意味ではない³⁰。後者の意味を表す場合は '차를 들고 말한다' (코ップ을持って=持ったまま言う。)という。24)も '눈을 뜬과 동시에 대답하기 시작하다' (目を開けると同時に答え始める)の意味であり, 눈을 뜬 채로(目を開けたまま)の意味ではない。これも後者の意味を表す場合は '눈을 뜨고 대답한다' (目を開けて=開けたまま答える)という。したがって, 上の例は, 前件の 23) '차를 들다' (코ップを持つ), 24) '눈을 뜨다' (目を開ける)が行われると同時に, 後件 23) '말하다' (言う), 24) '대답하다' (答える)が行われると解釈でき<同時点>と認められる³¹。

23), 24)の前件の動詞は, 前述の如く, いずれも'하고있다'形式を持つが, 進

行局面は存在しない。‘들고 있다’(持っている), ‘눈을 뜨고 있다’(目を開けている)の表す局面は、動作が終了した後の結果が持続する局面、すなわち結果持続局面で、無進行局面動詞に分類される。

類似する例は, ‘차에 타다’(車に乗る), ‘모자를 쓰다’(帽子をかぶる), ‘무릎을 베다’(膝枕をする), ‘손을 펴다’(手を開く), ‘쥐다’(握る), ‘줄을 잡다’(紐をつかむ), などがある。

【図表7】하고있다形式を持ち進行局面がない動詞の＜同時点＞



前件が無進行局面動詞であれば, 하면서が前後件を結びつける時間幅は, 前件の生起 = 終了局面という瞬間的時点しか存在し得ないので, 後件が進行局面を持ち得るかどうかに関わらず＜同時点＞となる³²。

3-2 하고있다形式を持たない動詞と하면서

次例の, ‘놓다’(置く)は, 하고있다形式を持たない。

- c) *촛불 하나를 탁자위에 놓고 있다.
(蠟燭一つを食卓の上に置いている。)

c)の‘놓다’(置く)は, 動作の生起局面‘*놓기 시작하다’(*置き始める)から動作が進行する局面‘*놓는 중이다’(*置いている最中), 動作が終了したことを示す局面‘*다 놓았다’(*置き終えた)のような一連の動作が進行する局面を持たない。このような動詞を노마 히데키(1993:29-35)は, 「無局面動詞」という。ところで, この場合は単一主体で単一動作であるが, 複数主体, 複数動作になると하고있다形式を持ち得る動詞が存在する。

- d) 많은 사람들이 촛불을 잇달아 탁자위에 놓고 있다.
(多くの人が蠟燭を次々と食卓の上に置いている)

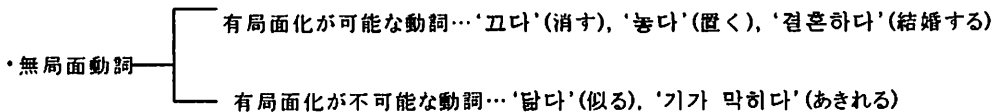
e) 요즘에 와서 내 친구들이 잇달아 결혼하고 있다. {노마 히데키:30}
 (最近になって、私の友達が続いて結婚している。)

以上のように、c)의 놓다(置く), e)의 결혼하다(結婚する)は、‘많은 사람들이’ (多くの人が), ‘친구들이’ (友達らが)のような複数主体である場合は、하고있다形式を持ち得る。このように、無局面動詞であっても、有局面動詞となり得るものもあり、このような動詞を有局面化が可能な動詞とする。ただし、複数主体、複数動作であっても하고있다形式を持ち得ない場合もある。

f) *요즘 젊은이들은 성형수술로 연예인을 닮고 있다.
 (最近の若い人達は、整形手術で芸能人に似ている。)

f') 요즘 젊은이들은 성형수술로 연예인을 닮아 가고 있다.
 (最近の若い人達は、整形手術で芸能人に似てきている。)

f') ‘닮아 가고 있다’ (似てきている)は可能であるが、f) ‘*닮고 있다’ (似ている)は、複数主体の複数動作においても하고있다形式を持ち得ない。これを有局面化が不可能な動詞とする。以上、述べてきたことを整理すると次のようになる。



하면서을とり<同時点>を表す‘뜨다’ (開ける), ‘놓다’ (置く)の場合、進行局面を持たないために1-다가을とり得ない。

25) 그녀는 {*감았던 눈을 뜨다가} 말했다.
 (彼女は{つぶっていた目をあけると同時に}言った。)

26) {*책을 내앞에 놓다가} 말했다.
 ({本を私の前に置いている途中}言った。)

노마 히데키(1993:22-34)における、하다가とアスペクト論においては、하다가の重要な意味が「動作の途中で他の動作に移行する」ことから、それ을とり得る用言は、語彙的な意味において「一定の時間的な長さを持った動作」でなければならないとしている。そのような用言は、하고있다形式을とりやすい用言であると述べている。ただし、上の例のように、하고있다形式을とり、進行局面を持たない動詞が하다가을とり得ないことについては言及されてない。すなわち、‘뜨다’のような動詞は、*그녀는 감았던 눈을 뜨다가’のように、하다가形をとらない。

3-2-1 <同時点>의하면서

(1) 前件の生起＝終了局面と後件の生起局面が一致する

27) 눈앞에 불뚝이 튀는 아픔 때문에 명자는 {발놀림을 멈추면서} 손을 잡아챘다.
【멀리:154】 (目の前に火花の散るように痛いため, ミョンザは{足の動きを止めると同時に}, 掴みとった.)

28) 나 역시 오빠의 손에서 {원고뭉치를 여지없이 나꿔채면서} 말했다. 【바구니】
(私もやはり, お兄さんの手から{原稿の塊を容赦なくひったくと同時に, 話しかけた。})

29) 어두워진 그녀의 방의 {형광등을 켜면서} 나는 더럭 겁이 났다. 【YC】
(暗くなった彼女の部屋の{蛍光灯をつけつけると同時に}, 私は一瞬怖くなった。)

上の例は, 前件の 27) ‘멈추다’ (止める), 28) ‘나꿔채다’ (ひったくる), 29) ‘켜다’ (つける) 動作が瞬間的に行われると同時に, 後件の 27) ‘잡아채다’ (掴みとる), 28) 말하다 (話す), 29) ‘겁이 나다’ (怖くなる) が起こるのでいずれも <同時点> である。‘～すると同時に’ (～함과 동시에) と訳しているのはそのためである。上の例における前件の動詞は, いずれも ‘하고있다’ 形式を持たない無局面動詞である。ところが, “많은 사람들이 발놀림을 멈추고 있다” (多くの人々が足の動きを止めている), “여러사람들의 원고뭉치를 나꿔채고 있다” (多くの人たちの原稿束をひったくっている), “많은 사람들이 형광등을 켜고 있다” (多くの人々が蛍光灯を点けている) のように, 複数主体, 複数動作においては有局面化が可能な動詞である。一方, 後件については 29) ‘겁이 나다’ (怖くなる) は, 하고있다形式を持たない無局面動詞で, かつ, 複数主体, 複数動作においても有局面化が不可能な動詞であり, 27) ‘잡아채다’ (ひったくる) は, 同じく無局面動詞ではあるが, 有局面化が可能な動詞であり, 28) ‘말하다’ (話す) は, 하고있다形式が可能で有進行局面動詞である。このように, 前件の動詞が有局面化が可能であれば, 後件の動詞の如何にかかわらず<同時点>となる。同様の例を次に挙げる。

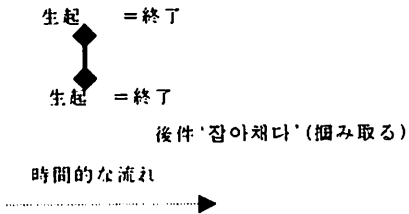
類例: 그만두다: 파내다/대리점을(止める: とる/代理店を), 깨다/잠에서: 달아난얼굴/취기가(さめる/ねむりから: 消えてしまった顔/酔い), 깨어나다: 깨달은 순간(目が醒める/悟った瞬間), 끝내다/식사를(終る/食事を), 내다/짚하는 쇠소리를: 쳐다보다/나를(出す/ガアンという金属の音: 見上げる/私を), 들어서다: 나다/언뜻기억이(踏み入る: 蘇る/ふと記憶が), 멈춰서다: 부딪치다/베란다난간에 몸을(立ち止まる: ぶつかる/ベランダ欄干に体を), 터지다/병이평하고: 불바다로 변하다/등뒤가(바안と割れる/빈가: 火の海に変わる/背中が), 거두다/성경책을: 짓다/표정을(引き込む/聖書を: する/表情を), 나서다/대문을: 시늉을 하다(出る/大門を: 真似をする), 흘끗: 놀라다: 내려다보다/신발을(ビクッと驚く: 見下ろす/靴を), 눕다: 말하다(横になる: 言う), 들어서다/화장실에: 벌렁 미끌어지다/바닥에(踏み入る/トイレに: 코로트すべる/床

に), 뱀다/침을 짜악:말하다(吐く/唾をベツ:言う), 뽀혀지다/배추가:드러나다(抜かれる/白菜が:表れる), 비켜나다/오른 쪽으로:하다/연발사격을(よける/右側に:する/連発射撃を), 뿌리치다/손을:말하다(振り切る/手を:言う), 서다:말하다(立つ:言う), 열어젖히다/화장실문을 와락:들어오다(開け放つ/トイレの門をグイト:入ってくる), 똑 자르다/말허리를:주문을 외다(バツツと折る/話しの腰を:呪文を唱える), 찡긋하다/눈을:말하다(する/ウインクを:言う), 가볍게 치다/핸들을:밟다/엑셀레이터를(カルク打つ/ハンドルを:アクセルを), 폭발하다:내뿜다/화산재를(爆発する:噴出す/火山灰を), 후려치다/등짝을:문다(殴りつける/背中を:聞く), 확 휘어지다/허리가:부딪칠 뻔하다(グツト曲がる折る/腰が:危うくぶつかる), (ト書き)내동댕이치다/외투를(投げつける/外套を), 상하다/금방 기분이(害する/すぐさま気分が), 等.

前件に有局面化が可能な動詞がくる場合に＜同時点＞となるのは, 局面が存在し得るものの進行局面はなく, 生起=終了局面が瞬間的に行われるため, 前件と後件が一定時間を同時に進行していることはあり得ず, 前件の生起=終了局面でのみ後件と時間を共有し得るからである。これを概念図化すると次のようになる。

【図表8】＜同時点＞ 27)의例

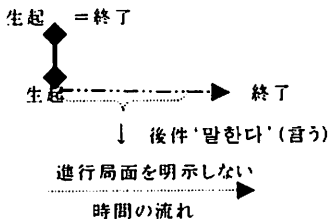
前件'멈추다'(止める)



27){발놀림을 멈추면서} 손을 잡아챌다.
({足の動きを止めると同時に}, 手を掴み取る。)

【図表9】＜同時点＞ 28)의例

前件'나뺌채다'(ひったくる)



28){원고등치를 나뺌채면서} 말한다.
({原稿の塊をひったくると同時に}, 言う。)

なお次のような例もある。

30) 형사는 조심스럽게 {탁자 옆으로 앉으면서} 대뜸 6.29 선언문을 읽어보았느냐고 물었다. 【벌 새:238】(刑事はゆっくりと{デスクの横に座りながら/座ると同時に}, いきなり, 6.29 宣言文を読んでみたかと尋ねた。)

31)は‘조심스럽게 앉고 있다’(ゆつくりと座りつつある)ように、時間的に幅を持たせる意味を持つ副詞などの挿入によって、前件がスローモーション化され、動作の始まりと終わりを表しているの、＜同時進行＞となる。日本語で‘～ながら’と訳すことができる。他に、‘슬금슬금 다가서면서’(じわじわと近寄りながら)などがある。

(2)前件の終了直前と後件の生起局面が一致する

同じく、前件が有局面化可能な無局面動詞でありながら、ニュアンスに微妙な差が表れる場合がある。

31) 수술받다 {죽으면서} 온 가족을 저주한 목사 이야기? 【해질녁:323】

(手術を受けている最中, {死ぬときに/死ぬ直前に} 全ての家族を呪った牧師の話?)

32) 고조할아버지가 {분가하면서} 지은 집이라고 했다. 【家:129】

(高祖父が{家するときに}, 建てた家だといった。)

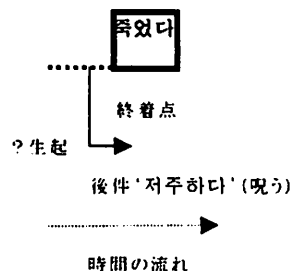
上の例は、前件 31)‘죽다’(死ぬ), 32)‘분가하다’という事態が終了する直前に、後件 31)‘저주하다’(呪う), 32)‘짓다’(建てる)が行われているので＜同時点＞となる。上の例における前件の動詞はいずれも無局面動詞である。一方、後件については 31), 32)ともに有進行局面動詞である。ところで、以上の動詞は、‘죽기 시작하다’(死に始める), ‘분가하기 시작하다’(分家し始める)などの生起点が曖昧であるが、‘죽었다’(死んだ), ‘분가했다’(分家した)のように、ある事態の終着点は確実に存在する動詞である。その終点と一致することは現実的に無理である(死んでしまってから呪うことはできない)。したがって、‘할 때’(～するとき)の他に、‘하기 직전에’(～する際に、～する直前に)と訳すことも可能である。もちろん、日本語で‘～ながら’とは訳せない。同様の例を挙げる。

類例:도착하다(到着する), 결혼하다(結婚する), 들다/잠자리에:충당질하다/아내가(寢床に入る:兆発する/女房が), 떠나다:켜놓다/불을(発つ:つけておく/電気を), 떠나다:단단히 부탁하다(発つ:お願いする), 입학하다(入学する), 헤어지다:부탁하다(別れる:お願いする), 출발하다(出発する), 출발하다(出発する), 퇴근하다(退社する), 헤어지다:묻다(別れる:尋ねる), 等。

以上の例の前件は、一般的に動作進行を表す하고있다形式持たない動詞である。

【図表10】前件の終了直前と後件が一致する＜同時点＞

前件 ‘죽다’ (死ぬ)



32) 수술받다 {죽으면서} 은가족을 저주하다.

(手術を受けている最中,{死ぬ直前に}全ての家族を呪う。)

注) は、死に際(直前)を示す

以上を要約すれば、次のようにまとめられる。

(前件)

(後件)

- | | | |
|-------------------------|--------------|-------|
| ●有進行局面動詞 | +有進行局面動詞 | =同時進行 |
| ●有進行局面動詞 | +進行局面を持たない動詞 | =途中点 |
| ●無進行局面動詞 | +局面を問わない動詞 | =同時点 |
| ●有局面化可能な無局面動詞+局面を問わない動詞 | | =同時点 |

注)「進行局面を持たない動詞」とは，하고있다形式を持つ無進行局面動詞と，하고있다形式をもたない無局面動詞の両方が含まれる。

3-2-2 하먼서를とり時間的關係の意味を表せない動詞

なお，하먼서形をとって時間的關係の意味を表すことができない動詞類がある。

33) *아빠를 닮으면서～(*パパに似ながら～)

34) *몸에 맞으면서～(*体に合いながら～)

35) *답이 틀리면서～(*答えが間違えながら～)

ここに挙げた動詞はすべて하고있다形式を持たないので進行局面は存在しないわけだが，‘*닳기 시작하다’(*似始める)，‘*맞기 시작하다’(*?合い始める)，‘*틀리기 시작하다’(*間違い始める)及び，‘*닳는 중이다’(*似る最中だ)，‘*맞는 중이다’(*合う最中だ)，‘*틀리는 중이다’(*間違い最中だ)，‘*벌써 닳았다’(*すでに似た)，‘*벌써 몸에 맞았다’(*すでに体に合った)，‘*벌써 틀렸다’(*すでに間違えた)のように，生起～進行～終了のどの局面も存在しない。このような動詞は3-2でみてきたように，노마 히데키(1993)によって有局面化が不可能な無局面動詞とされている。前件に，このような無局面動詞がくると，後件の動詞と時間を共有する局面がいつさえ存在しないので，時間的關係を表す하먼서形との結合が不可能になると考えられる。以下，同類の例を挙げる。

類例;가시가 목에 걸리다(骨が喉にかかる)，빨래가 널리다(洗濯物が干される)，기름이 묻

다(油がつく), 等。

4. まとめ

3節で論じてきたことをまとめておこう。

【図表11】動詞のアスペクト的意味による하면서의意味

前件動詞 の持つアス ペクト形式	前件動 詞	後件動詞	用例	時間的 関係	論理的 関係	非時間 的關係
① 하고 있 다 形式を 持つ	有進局面 動詞	有進局面 動詞(*)	걸으면서 묻는다. (歩きながら尋ねる)	同時進行	契機	本 研 究 資 料 上 に は 出 現 し な か っ た
	無進局面 動詞	無進局面 動詞, 無局面 動詞	날면서 박씨를 떨어뜨린다. (飛んでいる途中で瓢箪の 種を落とす。)	途中点		
2 하고 있 다 形式を 持たない	無局面 動詞	局面の有無を問わ ない	수화기를 들면서 말한다. (受話器を持ちながら言う。)	同時点		
	有局面 可能動詞	局面の有無を問わ ない	발놀림을 멈추면서 손을 잡아챈다. (足の動きを止めると同時 に手をつかむ。)	実現し ない	逆接	添 加 (極少)
③すべての 川言	有局面 不可能動詞	*앉으면서, *맞으면서, *물리면서				
	a)品詞を問 わない, b)アスペク ト形式					

注) (*) は, ‘을면서 앉아 있다’(泣きながら座っている)のように, 해있다形式が「動的结果状態」を表す。‘누워 있다’(横になっている), ‘앉아 있다’(座っている), ‘서 있다’(立っている), ‘엎드려 있다’(うつぶせている)など後件にくる場合は, 例外的に<同時進行>となる。

- ① 単一主体, 単一動作においては하고있다形式を持ち, かつ動作が継続進行する局面を持つ(有進行局面)動詞が하면서形をとると, 後件が進行局面を持てば<同時進行>となり, 後件が無進行局面動詞であれば<途中点>となる。次に, 前件が有局面動詞であっても, ‘들다’(持つ)のように進行局面を持っていなければ, 後件の局面の如何を問わず<同時点>となり, 時間的關係のみの意味となる。また, 単一主体, 単一動作においては하고있다形式を持たない(無局面)動詞が, 複数主体, 複数動作において하고있다形式を持つようになる。このような有局面化が可能な動詞が하면서形をとると, 後件動詞の局面の如何を問わず<同時点>となり, 時間的關係のみの意味となる。一方, 有局面化が不可能な動詞は, 하면서形をとっても時間的關係のみの意味は実現しない。

すなわち、時間的關係による接続の場合, 하먼서は、前件と後件の動詞の持つ生起～終了までの一連の局面のうち、ある一定時間(瞬間点を含む)を共有させるという機能を持つ。

- ② 非時間的關係の意味は、極めて少なく現われる。本稿では動詞以外をとる例のみで、動詞をとる例は出現しなかった。次に論理的關係の意味について、基本的に前件と後件が無意志用言や主体が異なる場合が多く、形容詞、存在詞、指定詞及び動詞の局面を問わず、前件と後件が因果關係を結べば<契機>となり、逆接の關係を結べば<逆接>となる。

このように、하먼서形をとる動詞のアスペクト的特徴と、時間的關係のみによる実現意味(<同時進行>、<途中点>、<同時点>)とが有機的に関わっていることが分かった。また、さらに、論理的關係内部の意味の分化(<契機>、<逆接>)は、動詞のアスペクト的特徴とは關係なく、前後件の意味論的な関連性によって決まることが明らかになった。後者と同様なもので非時間的關係による実現意味(<添加>)があったが、極少数しかなかった。

【謝意】本稿をまとめるに当たり、野間秀樹先生、伊藤英人先生にはひとかたならぬご指導をいただきました。また、朝鮮語研究会の発表の場において、송철의先生、生越直樹先生、福井玲先生を初め、内山政春さんには、貴重なご指摘をいただきました。さらに、東京外国語大学大学院生の中島仁さん、友人の荒井信子(早稲田大学在学)さんには論文を読んでいただいた上に、貴重なご指摘を数多くいただきました。この場を借りて感謝を申し上げたい。

《注》

- 1) 本稿は、第 169 回朝鮮語研究会において、口頭発表したものである。
- 2) 「接続形」等、基本的な文法用語は菅野裕臣(1981)による。Ⅰは用言の語幹のまま接続する形。Ⅱは母音語幹・ㄹ語幹では語幹のままで子音語幹は、語幹に-으がついた形、Ⅲは、語幹に-아/-어의ついた形をいう。
- 3) 김진수(1987a)など、“Ⅱ-며”、“Ⅰ-고”などの他の接続形語尾と比較対照したもの、あるいは他の接続形と網羅的に扱ったものが大半であった。
- 4) 実現意味は主に‘同時性’とし、付随的に‘強調’、‘譲歩’があるという。また、関連する述語の分類は、動作動詞と状態動詞に分けるに止まる。
- 5) この言語コーパスをもとにして研究した민경모(2000)によれば、60年代から90年代に至る小説と随筆などから編集したものであるという。
- 6) 協力していただいた母語話者は次の方々(敬称略)。강정식(東京外国語大学交換留学生、ソウル大学言語学科4年生)、남가경(延世大学校、言語情報課程大学院生)、백인영(東京外国語大学大学院生)、봉미경(東京外国語大学交換留学生、延世大学国語国文科大学院生)、성기웅(東京外国語大学交換留学生、延世大学国語国文学科4年生)、송정미(専門学校生)、천일환(東京外国語大学交換留学生、延世大学国語国文学科4年生)、최유경(専門学校生)、허욱(東京外国語大学交換留学生、ソウル大学言語学科4年生)、황연신(東京外国語大学交換留学生、ソウル大学言語学科大学院生)。以上、1960年代から1970年代に生まれた20代～

30代の方々である。調査は2000年8~9月に面談式で実施した。以上の方々のご協力がなくては本稿は完成され得なかったであろう。この場を借りて心から感謝申し上げたい。

7) 野間秀樹(1990:4)は、名詞分類の際に「すべての名詞が一定の文脈の中で扱われるべきことを前提とする」と述べ、当該の単語のみならず文脈を共に扱うことの重要性を指摘している。これは名詞についての言及であるが、用言についても当てはまる事柄であろう。浜之上幸(1991:27)もまた、動詞のアスペクティックの意味における多様性を指摘している。例えば、'집을 짓고 있다(家を作っている)'、'표정을 짓고 있다(表情を作っている)'の'짓고 있다'について、前者は「具体的な動作の生起~終了の局面」を表し、後者は「具体的な動作の終了後、その状態が維持されている局面」を表しており、「同じ動詞であっても動詞が表す事象の局面が異なったとき、アスペクティックな動詞分類の観点からは別の動詞として分類すべきであろう」としており、野間秀樹(1990)の考えを踏襲している。

8) 引用文中の「…(省略)…」は、引用者による省略を意味し、語彙などのリスト、単語や文の省略は「…」で記す。出典と頁は共に【 】の中に略号と数字で示す。出典のない用例は作例である。資料については本稿の末尾に付す。

9) 後件の'떨어뜨렸다'(落とした)という動作は、'박씨 하나'(瓢箪の種一つ)であることに注意しなければならない。たんなる'박씨를 떨어뜨렸다'(瓢箪の種を落とした)では、必ずしも一回の動作とは限定できず、何回も瓢箪の種を落としつづけたという動作の複数回性を表している可能性を排除できない。したがって、単一の動作であることが前後の文脈の中で判断できる場合に限る。

10) このような例を柴公也(1994)などで、継起性が表れる하자마자と置き換えが可能であると指摘しているが、多くの母語話者に確認をとるとニュアンスに大差がある指摘する。用例を検討する際、前件に'~すると同時に'を添えて説明してくれることが多い。

11) <同時点>となる例では、'뽕'など、動作が瞬間的に起こることを意味する副詞が添えられる場合が多い。

○이거 저것 괴로운 일이 많아.그래서 머리도 식힐 겸 바다나 보러 갈려구 해.탁트인 바다를 보면 {답답한 게 뽕 풀리면서} 시원하잖아. 【ドラマ:눈으로 말해요】(あれこれ辛いことが多いからなのか、頭も冷やしがてら、海でも見に行こうと思うの。広大な海を見れば、{もやもやしていたものが一気に晴れて}、気持ちよくなるじゃない。)

12) 動詞をとり<添加>を意味する例は、基礎資料中には表れなかったが次のような例がありえる。

○그는 {공부도 잘하면서} 노래도 잘한다.(彼は{勉強もよくできて}、歌もよくできる。)

上の例のように、前件や後件に-도がつくと一層自然である。

13) 例えば、'시원하면서도 맛이 쫄쫄'(淡泊で且つおいしくなります)などと置きかえることができ、この場合、意味は<添加>となる。

14) 形態論的な側面において'하라'や'해라'(しろ)のような命令形、'하자'(しよう)のような勧誘形、'하고싶다'(したい)のような希望形をとり、意味論的な側面からは主体の意志で抑制できる動作をあらわす用言を意志用言という。権在淑(1994a)、野間秀樹(1993:14-17, 1996:148)参照。

15) このことは、柴公也(1994)でも指摘されている。

16) 以下のような例がある。

○그만좀 마셔, {술도 약하면서} 자주 마시면 어떻게? 【YC】

(もう飲むのはやめて。{酒も弱いくせに}、どんどん飲むなんてどうするつもりなの。)

○{사진을 가지고 있으면서} 잘 내놓지 않는 맹공이 같은 전우를 구슬려야 하고,

【바구니:55】({写真を持っているのに}、ちっとも出さないバカのような戦友を説得しなければならないし。)

17) 野間秀樹(1990:57, 1993a:7-14, 1996:149)に従って、動作や状態の「主体」と文の成

分として「主語」の概念を区別して扱う。

18) 김진수(1987a:85)では, 하면서形を取る動詞句が動作動詞である場合は, 先行節と後行節の主語が同一でなければならないが, その事件が超自然的な現象であれば制約を受けないと述べる。

19) 노마 히데키(1996:145-148)は, 動作の並列, 並行を表す<하면서節>の内部では主語を持つことはできないが, <契機>を表す場合は可能であり, このときの用言は無意志動詞の場合が多いと述べている。

20) 文構造的な観点では, 本稿で‘前件’としている節を[하면서節], ‘後件’としている節を‘後節’と呼ぶことにする。なお, 節の概念などについては노마 히데키(1996)に従う。

21) 浜之上幸(1991:23)では, 菅野他(1988)をもとにして, 動詞が하고있다, 해있다を取るかどうかを次のような表で示している。

	하고 있다	해 있다	動詞の例
他動詞	+	-	알다(分かる), 먹다(食べる), 잡다(握る)
	-	-	맞다(似る), 맞다(合う)
自動詞	+	+	열중하다(熱中する), 오다(来る)
	+	-	늦다(遅れる), 걷다(歩く)
	-	+	늙다(老いる), 들다(気が触れる)
	-	-	결혼하다(結婚する), 생기다(見える)

(+はこの形式を持つことを示し, -はこの形式を持たないことを示す。)

22) 노마 히데키(1993:29-35)は, 하고있다形式を持つ動詞は, ‘먹다’(食べる)を例にとってみると, 単一主体の単一動作において먹기 시작하다(食べ始める)或いは, 먹는 중이다(食べている最中だ)が可能であるように, 動作に一連の時間的局面を想定できることから「有局面動詞」と名づけている。노마 히데키(1993:32)は, 「aspect 論の動詞分類をするならば, 先ず初めにすべての場合を想定してから, その各々の場合ごとに<하고있다>形が可能であるか不可能であるか調査する作業から再出発しなければならない。そのような作業を通じて, 当該の<하고있다>がいったいどのレベルでの<하고있다>であるかを確認しなければならないであろう」(引用者訳)と述べる。

23) 例えば, 次のような動作なら可能である。

○철수는 무거운 가방을 천천히 들어 올리고 있다.

(チョルスは重いカバンをゆっくりと持ち上げている。)

24) このように, 主体が客体を操縦・通過する例は, 하고をとると前件動作の生起局面を後件が受けることになり<同時>となる。これについては, 鄭玄淑(2000)参照。また, 次のような例は하고と置き換えることはできない。

○무거운 보통이를 끝듯이 들고 {골목길을 빠져 나오면서} 그녀는 한순간 갈등에 휩싸였다. 【YC】(重い風呂敷を引きずるように持って, {小道を抜け出しながら(最中に)})彼女は一瞬葛藤にさいなまれた。)

上の例は, 前件が進行している最中に後件が瞬間的に起こることを意味し<途中点>となる。

25) 動作の反復・多回数性については浜之上幸(1997a)参照。

26) 擬声擬態語+(·거리다)조잘-, 철렁-, 덜거덕-, 깔깔-, 擬声擬態語+(-대다)깔깔-, 킁킁-, などの反復を表す語彙が現われる。野間秀樹(1991:75)は, 「多くの言語の擬声擬態語につく。2音節以外の疊語形式にはつきにくい。動的な意味につく。多回的な意味を表す。非常

に生産的である。」と述べている。

27) 前件が動詞以外の場合は、次のような例があった。

○그 후 교박 이 년을 더 {병상에 있으면서} 가산을 탕진했다. 【家:138】

(その後、まる2年を、さらに{病の床に臥しながら}、財産を使い果たした。)

上の例は、前件‘병상에있다’が‘病に臥す’と直訳できることからわかるように、‘存在する’という意味ではない場合に限る。

○아이들이 동시에 {크면서} 야단이었다. 【YC】

(子供達が、同時に{育ちながら}、たいへんであった。)

上の例は、‘크다’(育つ)は有進行局面動詞であるが、後件は反復的な事象を表す名詞である야단(大騒動)+이다(～である)がついたものである

浜之上幸(1997a:167)は、このような例は複数性を‘統辞論的な手段’として表しているとして、他に‘하기 일췌이다’を挙げている。なお、‘連体形+(일/적)도+反復的な事象を表す述語’などが後件にくる場合も＜同時進行＞となる。

28) なお、後件が言語活動動詞の場合は接続形해서との置き換えが可能な例もある。鄭玄淑(2000)参照。

○나는 말을 하다보니 부아가 치밀어서 나도 모르게 {열을 올려서} 말했다.

【서부:98】(私は話しているうちに、腹が立って自分もしらないうちに{熱を上げて}言った。)

29) 노마 히데키(1993:22-34)によると、하다가は「前件の動作や状態が完全に中断された後、後件の動作や状態に移る」意味の＜中断＞を表すとされている。大江孝男(1972:326)では、하다가と하면서の置き換えは不可能であるとしながら、前者はできごとの注目するところが「終わり」を、後者は「始め」に重点が置かれているからであるとする。実際に多くの母語話者によると、21)の例を‘실려오면서 간염 걸리다’、‘실려오다가 간염 걸리다’のように、하다가に置きかえると、前者は前件に、後者は後件に焦点が置かれると指摘する。

30) 次のような例も＜同時点＞となる。

○이영혜선생은 {송수화기를 들면서}나가달라는 눈짓을 했으나 정상무는 순간 ...【YC】(イ・ヨンへ先生は、{受話器を持つと同時に}、出ていってくれと合図をしたが、チョン常務は....)

‘受話器を持ったまま’を意味する場合は‘{송수화기를 들고} 나가달라는 눈짓을 했으나’のように하고形をとる。

31) 次のように、本来なら瞬間的に生起＝終了する動作であっても、副詞などによって生起から終了の局面が伸ばされる場合がある。

○그때 달준씨는 {그 손을 꼭 잡으면서} 결심했다. 【YC】

(その時、タルチュンさんは{その手をギュッと握って}決心した。)

○교도관이 {눈을 꿈잠게 뜨면서} 죄수한테 주의를 주었다. 【YC】

(監守が{にらみつけて}罪人に注意をした。)

上の例の‘손을 잡다’(手を握る)と、下の例の‘눈을 뜨다’(目を開ける)は、‘～すると同時に’と訳するように、生起＝終了局面が瞬間的に起こることを意味する。ところが、‘꼭’、‘꿈잠게’が挿入されることで、生起から終了の局面が引き伸ばされている。

32) 下の例のように、後件が次のような移動動作の場合は不自然な文になる。

○*그녀는 {가방을 들면서} 걸어갔다.

(彼女は<カバンを持ちながら>歩いて行った。)

参考文献 《朝鮮語で書かれたもの——가나다順——》

高永根(1975) “現代 國語의 語末語尾에 대한 構造的 研究” 『應用言語學』 7·1.

——(1981) “한국어 연결형 어미의 의미 분석 연구 I” 『한글』 173·4, 한글학회.

——(1984) “한국어 이음씨끝의 의미 및 통어 기능 연구(1)” 『한글』 186, 한글학회.

金珍洙(1987a) “‘고’, ‘-(으)며’, ‘-(으)면서’의 통사·의미의 상관성” 『國語學』 16.

(心岳李崇寧先生八旬記念號) 국어학회.

——(1987b) 『국어 접속조사와 어미 연구』 塔出版社.

金倉燮(1981) “現代國語의 複合動詞의 研究” 『國語研究』 47, 國語研究會.

김홍수(1977) “제기의 ‘고’에 대하여” 『國語學』 5, 국어학회.

권재일(1985) 『국어 복합문 구성연구』 집문당.

南基心(1978a) “국어 연결어미의 화용론적 기능:나열형 ‘·고’를 중심으로”

『延世論叢(人文社會科學編)』 15, 延世大學校大學院.

——(1985a) “접속어미와 부사형어미” 『말』 10, 연세대학교어학당.

——(1985b) 『國語文法의 時制問題에 關한 研究』 塔出版社.

——(1994 a) “‘·고’, ‘·어서’, ‘·니까’, ‘·다가’의 통사적 특징” 『국어 연결어미의 쓰임』 서광학술자료사.

남기심·고영근(1998) 『표준 국어문법론』 개정판 塔出版社.

남윤진(1989) “15세기 국어의 접속어미에 대한 연구” 『국어연구』 93, 서울대학교 국어연구회.

노마 히데키(1993) 「現代韓國語의 接續形<다가>에 對하여 ——aspect·taxis·用言分類——」 『朝鮮學報』 149, 朝鮮學會.

——(1996) “한국어 문장의 계층구조” 『언어학』 19, 한국언어학회.

민경모(2000) “국어 어말어미류의 텍스트 장르별 사용 양상에 대한 연구” 연세대학교 대학원 석사논문.

서정수(1985) “국어의 접속어미 연구” 탑출판사.

——(1990) “국어 문법의 연구 I, II” 한글, 189.

——(1996) 『국어문법』 한양대학교 출판부.

徐泰龍(1979) “國語接續文에 대한 研究” 『國語研究』 40, 서울대학교.

禹明濟(1988) “語尾{·며}{·면서} 研究” 『국어국문학 논문집』 서울대학교.

유목상(1985) 『서울 연결형 어미 연구』 집문당.

유탄니 유키도시[祐谷幸利](1978) 「現代韓國語의 動詞分類——aspect를 중심으로——」 『朝鮮學報』 87, 朝鮮學會.

윤평현(1989) 『국어 접속어미의 연구』 “의미론적 기능을 중심으로” 한신문화사.

李翊燮·任洪彬(1983) 『國語學概說』 學研社.

전수태(1984) “진술 미완의 ‘·아’와 진술완료의 ‘·고’” 『한글』 185, 한글학회.

정현숙(1999) “특정한 동사류와 <고>, <어서>와의 통합에 대하여” 『언어학』 25, 한국언어학회.

조오현(1991) 『국어의 이유구문 연구』 한신문화사.

홍재성(1987) 『현대 한국어 동사구문의 연구』 塔出版社.

崔在喜(1985) “‘·고’接續文의 樣相” 『국어 국문학』 94.

崔在喜(1991) 『국어의 접속문 구성 연구』 탑출판사.

최현배(1929;1961) 『우리말본』 정음문화사.

《日本語で書かれたもの——あいいうえお順——》

遠藤裕子(1982) 「接續助詞「て」の用法と意味」 『音声・言語の研究 2』 東京外國語大學.

大江孝男(1972) 「用言語尾の意味と体系——現代朝鮮語の連用形語尾について——」 『現代言語學』 三省堂.

- 生越直樹(1987)「日本語の接続助詞『て』と朝鮮語の連結語尾{a}{ko}」『日本語教育』62, 日本教育学会.
- 菅野裕臣(1981)『朝鮮語の入門』白水社.
- (1986・7)「中級講座」『基礎ハングル』第2巻 1・12, 三修社.
- (1990)「アスペクト——朝鮮語と日本語」『国文学 解釈と鑑賞』704, 至文堂.
- 菅野裕臣・早川嘉治・志部昭平・浜田耕策・松原孝俊・野間秀樹・塩田今日子・伊藤英人共編, 金周源・徐尚揆・浜之上幸協力(1988;1991²⁾)『コスモス朝和辞典』白水社.
- 権在淑(1994a)「現代朝鮮語の用言の接続形(·아/·어)について」『Lingua』5, 上智大学—般外国語.
- 河野六郎(1979)『河野六郎著作集 第1巻 朝鮮語学論文集』平凡社.
- 柴公也(1984)「『~(으)면서』の意味と用法について」『熊本学園大学 文学・言語学論集』第1・2号, 熊本学園大学.
- 野間秀樹(1990)「朝鮮語の名詞分類——語彙論・文法論のために——」『朝鮮学報』135, 朝鮮学会.
- 野間秀樹(1991)「朝鮮語のオノマトペ——擬声擬態語と派生・単語結語・シンタックス・テキストについて——」『学習院大学言語共同研究所紀要』第14号, 学習院大学言語共同研究所.
- (1993)「現代朝鮮語の対格と動詞の統辞論」『言語研究 Ⅲ』東京外国語大学語学研究所.
- (1994)「現代朝鮮語の語彙分類の方法」『言語研究 Ⅳ』東京外国語大学語学研究所.
- (1997)「朝鮮語の日本語の連体修飾節(冠形節)構造」東京大学文学部朝鮮文化研究室紀要 第4号, 東京大学.
- 浜之上幸(1991)「現代朝鮮語のアスペクト的クラス」『朝鮮学報』138, 朝鮮学会.
- (1992)「現代朝鮮語の『結果相』=状態パーフェクト——動作パーフェクトとの対比を中心に——」『朝鮮学報』142, 朝鮮学会.
- (1997a)「現代朝鮮語における動作の複数性について」『日本語と外国語の対照研究 Ⅳ 日本語と朝鮮語』, 国立国語研究所.
- (1997b)「朝鮮語のアスペクト——日本語との対比の観点から——」『先端的言語理論の構築とその多角的実証(1-B)』(平成8年度 COE 形成基礎研究費研究成果報告).
- 姫野昌子(1984)「動詞『て』形の連体修飾構造」『日本語学校論集』10.
- 鄭玄淑(1996)「現代朝鮮語接続形-고について——その意味・用法をめぐって——」『朝鮮学報』161, 朝鮮学会.
- 鄭玄淑(1998)「現代朝鮮語接続形Ⅰ-고とⅢ-서について」『朝鮮語研究会発表要旨集』149・150 回記念大会, 東京外国語大学.
- 鄭玄淑(2000)「Ⅰ-고, Ⅲ-서と動詞のアスペクト的特徴との関連性——アスペクト形式による用言分類を通して」165 回, 朝鮮語研究会, 発表要旨.

《その他の言語で書かれたもの——アルファベット順——》

Comrie, B.(1976) *Aspect* Cambridge University Press, London.

Maslov, Ju.S.(1978) *K osnovanijam sopostavitel'noj aspektologii*, v kn.: Voprosy sopostavitel'noj aspektologii, Leningrad (「対照アスペクト論の原理に寄せて」菅野裕臣編訳(1991)所収).

<用例を蒐集した文献・資料一覧>

<基礎資料>

『희곡 백제인간』圖書出版 圓方閣 <戯曲>, (1991)の中, 金容洛「마주보는 나무들」, 윤정선「혹시 꽃이?」, 한혜원「딸들의 야망」, 박상률「시인의 나라」, 홍석주「이슬 가는 길목」[마주], {혹시}, {딸들}, {시인}, {이슬}, (1992)の中, 이만희「그것은 목탁구명숙의 작은 어둠이었습니다」[그것은]を使用.

『現代文学受賞小説集』현대문학 <小説>, (1992)の中, 김영현「내마음의 서부」[서부], (1993)の中, 박완서「家」, 이원규「천사의 날개」[家][천사], (1994)の中, 구효서「카

프카를 읽는 밤」, 채희운「길 위에 서서」, 박상우「산타페」, 윤대녕「은어낙시 통신」, 윤정도「벌새」, {카프카}, {길}, {산타페}, {은어}, {벌새}, (1996)の中, 구효서「나무남자의 아내」, {나무}를使用。

『李箱文学賞 수상작품집』文學思想社 <小説>, (1981) 박완서「엄마의 말뚝 2」{엄마}, (1982;1985) 임철우「아버지의 땅」{아버지}, (1982;1986)이문열「匿名의 섬」{익명}, (1984)윤정선「해질녘」{해질녘}, (1990;1991) 김영현「별」, 이청준「홀터」{별}{홀}, (1992)최수철「얼음의도 가니」{얼음}, (1993) 공선옥「우리생애의 꽃」{우리}, (1994) 김문수「온천가는 길에」{온천}, 김영현「그리고 아무 말도 하지않았다」{그리고}, 윤대녕「소는 여관으로 들어온다 가끔」{소는}, 윤대녕「天地間」{천지}, (1996) 김이태「궤도를 이탈한 별」{궤도}, 성석재「첫사랑」{첫}, 김형경「담배 피우는 여자」{담배}를使用。

『신춘문예 당선작품집』도서출판 예하 <小説>, (1993) 유성식「아주 사소한 류씨 이야기」, 김재순「멀리 있는 땅」{류씨}, {멀리}를使用。

(1996)김형경「세상의 둥근 지붕」『동인문학상 수상작품집』朝鮮日報社 <小説>, {세상}를使用。

(1989)李東河「과천에는 새가 많다」『三鶴島』東亞 <小説>, {과천}를使用。

(1988)鄭世盛「王陵」『뜨거운 강』東亞<小説>, {왕}를使用。

(1990)강석·정혜영『나의 신혼일기』명서원<手記>, {신혼}。

(1992)金周榮「악령」『巨人을 찾아서』예음<小説>, {악령}를使用。

(1990) 김남「코스모스 필 무렵」『'90 방송작가 작품선』圖書出版 第3企劃<小説>, {코스}를使用。

『朝鮮語視聽覚教材』東京外国語大学朝鮮語学科研究室編 <放送スクリプト>, (1991) (この中から「월세신부」, 「비를타고오른 망둥이」, 「장군 명군」, 「광주는 말한다」, 「김치」를使用){월세}, {망둥이}, {장군}, {광주}, {김치}를使用。

『며느리 밥줄꽃에 관한 보고서』팀메니아 <만화>, (1994)이현세 {며느리}。

<基礎資料以外>

延世大学言語情報研究院で構築した資料の中から, 하면서의用例を 20000 例以上提供させて頂いた。{YC}

현대 한국어의 접속형 ‘Ⅱ-면서’에 대하여

간다외어대학, 동경외국어대학 시간강사

정현숙

본고는 현대한국어의 접속형 ‘Ⅱ-면서’가 실현시키는 의미와 용법에 대해서 실제로 쓰이는 언어자료를 토대로 고찰한 것이다. 그 결과 전건(前件)과 후건(後件)의 관계에 따라서 ‘Ⅱ-면서’가 실현시키는 개별적 의미는 6 개, 즉 ①동시진행, ②도중점, ③동시점, ④첨가, ⑤계기(契機), ⑥역접이 되는 것을 밝혔다.

이 6 개 의미들은 1)①,②,③과 같이 전건과 후건이 시간적 관계를 맺는 경우, 2)⑤,⑥과 같이 시간적 관계도 있으나 오히려 논리적 관계를 맺는 경우, 3) ④와 같이 전건과 후건이 시간적 관계를 전혀 맺지 않는 경우로 분류된다.

‘Ⅱ-면서’가 시간적 관계를 맺는 경우에 어떤 개별적 의미가 실현되는가에 대해서는, 전건과 후건에 쓰이는 동사의 상적(相的) 특징에 따라서 아래와 같이 나타나는 것으로 보았다.

(전건)	(후건)	(실현의미)
●有進行局面動詞	+有進行局面動詞	=동시진행
●有進行局面動詞	+進行局面을 안 가지는 동사	=도중점
●無進行局面動詞	+局面을 안 가리는 동사	=동시점
●有局面화가 가능한 無局面動詞	+局面을 안 가리는 동사	=동시점

단, 논리적 관계(계기, 역접)나 비시간적 관계(첨가)의 경우에는 동사의 상적 특징이 영향을 주지 않는다는 것을 밝혔다.